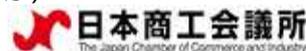


商工会議所 LOBO (早期景気観測)

- 2009年7月調査結果 -



2009年7月31日

<結果のポイント>

7月の全産業合計の業況DIは 63.6と、前月に比べ+0.6ポイントとなり、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。ただ、マイナス幅の縮小ペースは一層鈍化している。業況は一旦底を打ったとみられるが、水準は依然として厳しく、楽観を許さない状況となっている。

業種別では、建設業、製造業でマイナス幅が縮小し、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大した。建設業については、公共工事など経済対策の効果、製造業については、環境対応車、エコポイント制度など経済対策の効果や中国向け輸出等の持ち直しの動きが寄与しているものとみられる。一方、小売業、サービス業については、個人消費の減退等売上悪化を訴える声が多く寄せられている。

仕入単価DIについてはマイナス幅が縮小したが、従業員DI、資金繰りDIは悪化、採算DIは低水準に止まっている。各地からは、雇用調整助成金等の申請企業の増加や長引く売上の低迷により、継続的な資金繰りが限界に達し、借入金の返済や新規借入れが困難な状況になりつつあるとの声が寄せられている。

公共工事については、国（地方局）や地方自治体により進捗程度が異なり、下請けの多い中小・零細企業への波及が十分に進んでいないとの声、採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下を訴える声、ボーナス減少、在庫品一掃大売り出しの不振等個人消費の減退について訴える声が多く寄せられた。なお、山口県下の商工会議所からは、事業所の床上浸水による被害、断水による休業など、豪雨災害に関する影響を懸念する報告があった。

先行きについては、公共工事の前倒しや、環境対応車、エコポイント制度など中小企業への今後の波及効果を期待する声がある一方で、景気を押し上げるには力不足との声もあった。雇用情勢の悪化や設備投資の減退など需要の低迷等により、景気の底割れや長期停滞を懸念する声が依然として強い。

調査要領

調査期間 2009年7月17日～24日

調査対象 全国の407商工会議所が2588業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業：383 製造業：615 卸売業：235

小売業：736 サービス業：619

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況及び業界として当面する問題等
DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

業況DIは、マイナス幅が5カ月連続で縮小

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、63.6と、前月に比べ+0.6ポイントとなり、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。ただ、マイナス幅の縮小ペースは一層鈍化している。業況は一旦底を打ったとみられるが、水準は依然として厳しく、楽観を許さない状況となっている。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、製造業で縮小し、他の3業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各地からは、公共工事については、国（地方局）や地方自治体により進捗程度が異なり、下請けの多い中小・零細企業への波及が十分に進んでいないとの声、採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下を訴える声、ボーナス減少、在庫品一掃大売り出しの不振等個人消費の減退について訴える声が多く寄せられた。一方、公共工事の前倒しや、環境対応車、エコポイント制度など中小企業への今後の波及効果を期待する声がある一方で、景気を押し上げるには力不足との声もあった。雇用情勢の悪化や設備投資の減退など需要の低迷等により、景気の底割れや長期停滞を懸念する声が依然として強い。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑好転 ↓悪化

【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	↑	↓

- ・「公共工事は出始めているが、低水準」（一般工事業）
- ・「公共工事は前倒しのある地域とない地域がある」（一般工事業）
- ・「公共工事の前倒しに期待しているが、民間部門では厳しい状況が続く」（建築工事業）

【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	↑	↓

- ・「米国向けの輸出が回復しないと厳しい。内需向けでは新エネルギー分野に期待」（金属加工機械製造業）
- ・「在庫調整が進み、生産に持ち直しがみられる」（自動車・同附属品製造業）
- ・「造船関連では、受注のキャンセルが出始めている」（船舶製造・修理業）

【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↑	↓	↓	↑	↓

- ・「販売価格が下落しており、デフレ傾向にある」（各種商品卸売業）
- ・「原油価格が上昇気味で、化学製品の一部が高騰している」（衣服・日用品卸売業）
- ・「得意先の売上が回復しないため、今後の見通しが立たない」（他の卸売業）

【小売業】

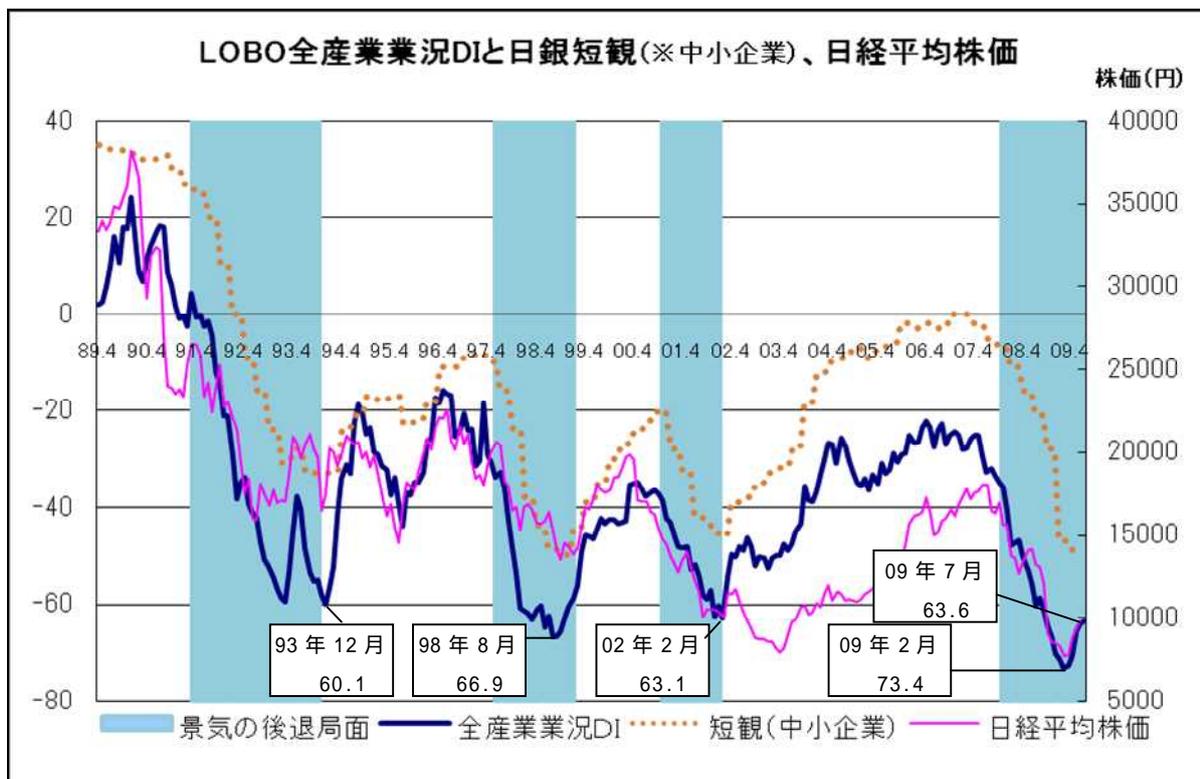
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↓	↓	↓

- ・「ボーナスの減少の影響で、在庫品の一掃大売り出しは厳しい状況」（百貨店）
- ・「エコポイント対象商品がますますの売れ行き。地デジ対応の薄型テレビが好調」（その他の小売業）
- ・「プレミアム付商品券に期待したが、効果は限定的であった」（商店街）

【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↓	↑	↓

- ・「依然として景気回復の見通しがなく不安」（そば・うどん店）
- ・「高速道路料金の値下げにより日帰り客が増加し売上が減少」（旅館）
- ・「環境対応車向け減税措置により新車販売が増加」（自動車整備業）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、63.6と、前月に比べると+0.6ポイントと、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。ただ、マイナス幅の縮小ペースは一層鈍化し、水準も依然として厳しい。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、製造業でマイナス幅が縮小し、他の3業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が48.4と、昨年同時期の先行き見通し(58.4)に比べて10ポイント、マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

業況DI(前年同月比)の推移

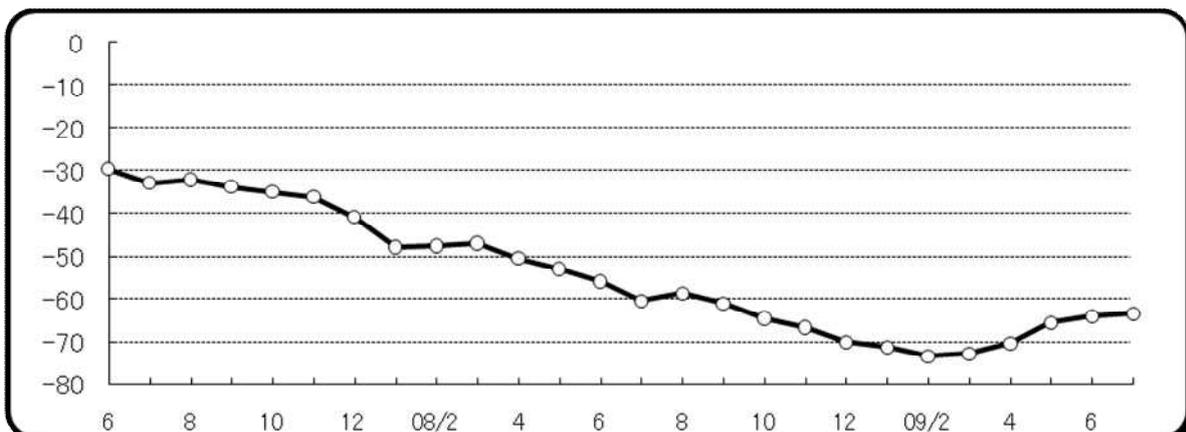
	09年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	73.4	72.8	70.4	65.7	64.2	63.6	48.4 (48.3 / 58.4)
建設	75.8	72.1	70.9	71.6	66.7	61.2	50.0 (46.8 / 66.4)
製造	75.6	73.5	74.4	69.1	70.6	65.7	44.0 (46.4 / 55.1)
卸売	71.1	70.5	66.7	66.2	61.8	65.5	48.9 (42.4 / 57.8)
小売	71.5	75.5	70.9	66.2	63.4	65.1	54.5 (54.3 / 58.0)
サービス	72.6	70.2	66.9	57.7	57.3	60.3	44.7 (46.7 / 57.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

()内左側(網かけ)は前月6月の先行き見通しDI

()内右側は昨年7月の先行き見通しDI

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、61.6となり、前月に比べると+0.4ポイントと、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。ただ、マイナス幅の縮小ペースは一層鈍化し、水準も依然として厳しい。産業別にみると、D I値のマイナス幅は小売業、サービス業を除く、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月ベース)が41.9と、昨年同時期の先行き見通し(44.2)に比べ2ポイント以上マイナス幅が縮小している。

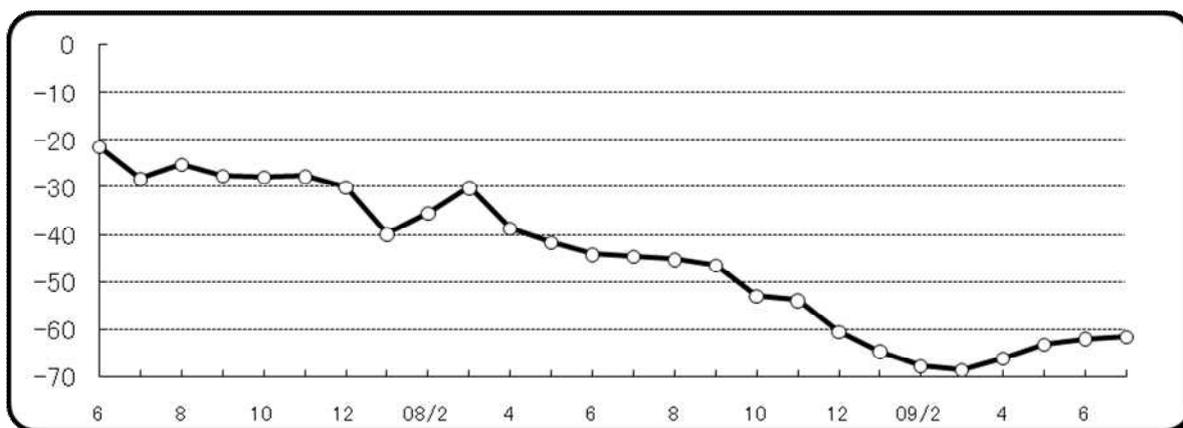
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売業、小売業を除く、他の3業種でマイナス幅が縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	09年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	67.7	68.5	66.2	63.2	62.0	61.6	41.9 (43.2 / 44.2)
建設	68.2	64.8	68.2	69.3	60.3	54.2	36.7 (42.9 / 55.3)
製造	72.3	68.7	70.3	68.2	65.9	65.0	34.9 (39.3 / 38.7)
卸売	57.8	68.5	60.9	53.8	61.1	60.0	39.3 (33.3 / 37.0)
小売	67.7	72.1	65.9	60.8	64.6	66.7	54.0 (51.2 / 46.9)
サービス	66.5	66.7	63.2	60.5	56.2	57.3	39.5 (42.1 / 42.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 ()内左側(網かけ)は前月6月の先行き見通しD I
 ()内右側は昨年7月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、60.8となり、引き続き低水準に止まっている。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、卸売業が横ばいで推移、小売業、サービス業で拡大した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が45.1と、昨年同時期の先行き見通し(52.7)に比べて7ポイント以上マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売業を除く、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

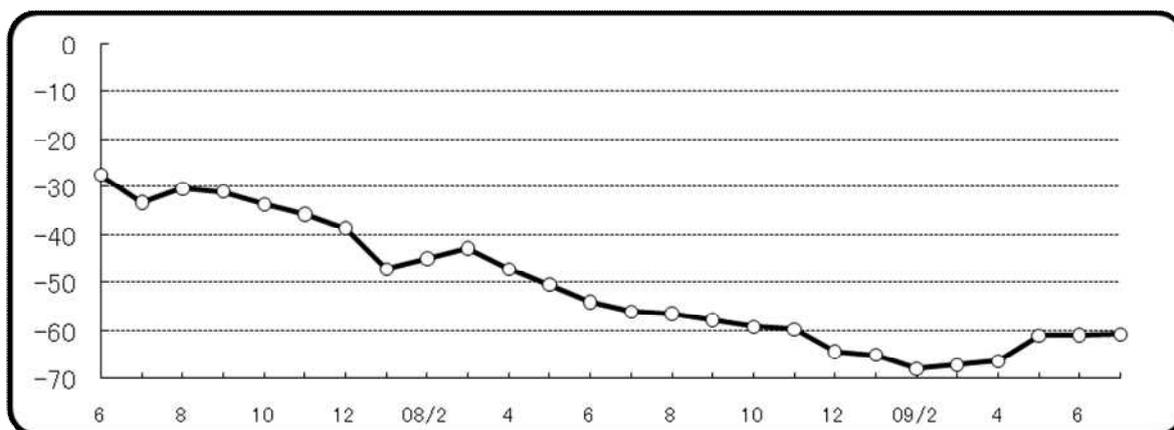
	09年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	67.9	67.2	66.3	61.0	60.9	60.8	45.1 (46.5 / 52.7)
建設	70.8	67.0	70.5	64.7	67.1	61.1	45.1 (50.6 / 64.0)
製造	73.6	71.6	73.6	68.2	68.3	65.8	43.6 (46.0 / 51.9)
卸売	55.2	60.3	56.9	53.8	56.3	56.4	34.5 (38.2 / 45.5)
小売	66.5	67.4	64.4	59.3	58.4	62.0	52.9 (49.6 / 49.7)
サービス	67.0	65.2	61.9	56.0	53.3	55.9	41.8 (43.9 / 52.8)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月6月の先行き見通しD I

()内右側は昨年7月の先行き見通しD I

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	09年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	48.5	48.1	46.9	43.1	42.7	44.7	35.7 (36.8 / 38.1)
建設	59.2	57.7	56.4	51.3	50.9	47.9	41.7 (44.3 / 50.0)
製造	54.2	53.2	57.3	52.7	56.6	53.3	38.8 (45.4 / 37.8)
卸売	41.1	43.8	41.2	40.1	35.1	38.2	28.2 (27.6 / 34.7)
小売	40.2	40.3	39.2	34.8	32.9	38.0	33.1 (29.8 / 31.9)
サービス	47.8	46.8	40.7	38.2	35.9	43.5	34.6 (33.9 / 38.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、44.7となりマイナス幅が拡大した。産業別にみると、建設、製造を除く、他の3業種でマイナス幅が拡大した。

【先行き見通しD I】全産業合計はマイナス幅が縮小する見通し。産業別にみると、すべての業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	09年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	28.0	25.7	15.4	13.6	11.6	9.5	11.8 (11.8 / 54.2)
建設	34.1	29.6	19.7	22.3	18.5	15.9	18.7 (17.2 / 62.3)
製造	28.4	26.8	15.6	12.3	10.1	9.1	10.2 (12.5 / 58.8)
卸売	18.0	17.2	18.8	11.8	8.3	3.6	4.3 (5.6 / 46.1)
小売	27.2	23.9	11.4	9.8	7.1	7.6	9.6 (6.9 / 50.7)
サービス	28.4	27.9	15.5	14.4	15.2	13.1	14.7 (15.7 / 51.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは9.5となり、引き続き上昇感が弱まっている。産業別にみると、小売を除く、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が強まる見通し。産業別にみると、すべての業種で上昇感が強まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月6月の先行き見通しD I

()内右側は昨年7月の先行き見通しD I

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	20.2	20.0	21.9	21.2	18.7	21.1	16.3 (16.5 / 9.4)
建設	37.4	34.5	34.5	39.5	36.5	37.4	28.8 (29.9 / 27.3)
製造	28.7	28.6	33.0	31.7	28.4	32.3	19.0 (22.5 / 7.9)
卸売	18.8	20.7	23.9	17.9	17.4	21.7	14.4 (17.5 / 13.7)
小売	8.2	8.4	11.8	10.7	9.0	10.5	11.6 (8.1 / 4.1)
サービス	14.5	14.7	13.6	11.9	8.3	11.0	11.7 (10.4 / 3.7)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、 21.1となり過剰感は強まった。
産業別にみると、すべての業種で過剰感が強まった。
- 【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が弱まる見通し。産業別にみると、小売、
サービスを除く、他の3業種で過剰感が弱まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
()内左側(網かけ)は前月6月の先行き見通しD I
()内右側は昨年7月の先行き見通しD I

雇用情勢のさらなる悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。製造業からは、「教育訓練給付金を利用している企業が多くなっている」（西尾・鉄素形材製造業）、「人員整理を本格的に検討」（三島・建設・鉱山機械製造業）、「雇用調整助成金に係る教育訓練を月2回行っている」（西尾・金属加工機械製造業）、「従業員の一時帰休等を実施する事業所や雇用調整助成金制度等を利用している事業所も多い」（館山・金属加工機械製造業）、サービス業からは、「例年になく厳しい業況。閉店、人員整理する店舗が多い」（野田・すし店）、「派遣先の経費節減により派遣社員の契約期間満了での打ち切りの申し出があった」（名古屋・他事業サービス業）などの声が寄せられている。

また、「中小企業緊急雇用安定助成金制度の見直しは大変助かっているが、まだ申請後の支給に時間がかかり過ぎるのではないかな。また、教育訓練給付金制度については、わかりやすくしてほしい」（山形・鉄素形材製造業）などの声もあった。

経済対策に対する期待感

公共工事、環境対応車、エコポイント制度など政府が打ち出している大型経済対策による景気持ち直しへの期待感が寄せられている。建設業からは、「公共工事の前倒し発注に期待」（長崎・一般工事業）、「補正予算の速やかな執行を期待」（熊本・建築工事業）、「公立小中学校の太陽光発電設備の設置計画に期待」（北九州・電気工事業）製造業からは、「環境対応車関係の売上が好調」（豊橋・自動車・同附属品製造業）小売業からは、「エコポイント制度は消費拡大に向けて明るい材料」（盛岡・百貨店）、「プレミアム付商品券の利用枚数が予想を上回った」（豊橋・商店街）サービス業からは、「高速道路料金値下げの効果があった」（土佐清水・食堂・レストラン）などの声が寄せられた。

一方で、「公共工事は前倒しのある地域とない地域がある」（四国中央・一般工事業）といった景気対策の早期実施を求める声もあった。

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下、ボーナス減少、在庫品一掃大売り出しの不振等個人消費の減退について訴える声が多く寄せられた。建設業からは、「公共工事の受注競争が激しく低価格入札が増えている」（長岡・一般工事業）、「受注は低価格の工事のみになっている」（鎌倉・建築工事業）製造業からは、「需要の減少や競争激化により販売価格が下落している」（名古屋・電子部品製造業）小売業からは、「消費者は、低価格でも必要ないものは買わないという傾向が強くなっている」（蕨・百貨店）、「ボーナス減少の影響で消費が冷え込んでいる。客数は維持しているが、客単価が下がっている」（藤枝・百貨店）、「一時下げ止まったが、売上は減少傾向」（観音寺・商店街）サービス業からは、「売上に下げ止まり感がない」（上田・他の一般飲食店）といった声が寄せられた。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 5月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	新型インフルエンザの悪影響
6月	雇用情勢の悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
7月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【産業別概況】(特徴的なコメント)

産 業	概 況					
建 設	DI値(前月比) ↑好転 ↓悪化					
	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↑	↓
	<p>「大型物件の発注はあるが、予算は依然厳しい」(一般工事業)、「公共工事の前倒し効果が現れはじめた」(土木工事業)、「受注は増えたが、利益が出ない」(建築工事業)</p> <p>「工事価格が低下傾向。全般的に仕事量が少なく売上も低下」(一般工事業)、「受注できるのは低価格工事のみ」(建築工事業)、「民間工事の発注量が少なく大変厳しい」、「とにかく仕事がない」(ともに土木工事業)</p>					
製 造	DI値(前月比) ↑好転 ↓悪化					
	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↑	↓
	<p>「自動車製造業において若干残業時間が増加」(建設機械・鉱山機械製造業)、「低水準ながら回復の兆しがある」(耐火物製造業)、「前年同期比までは回復していないが受注量は増加。夏場の仕事は確保」(農業用機械製造業)、「売上は前年割れの状態であるが、受注、雇用は一部改善している」(電気部品製造業)</p> <p>「資金が底を尽きかけている」(他電気機械製造業)、「業界として不況対策工事発注に関する要望書を提出した」(一般作用業用機械製造業)、「利益の出ない仕事をしている企業が多い」(自動車・同附属品製造業)</p>					
卸 売	DI値(前月比) ↑好転 ↓悪化					
	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↑	↓	↓	↑	↓
	<p>「お中元商戦による売上増を期待」、「一時期に比べ売上は下げ止まっている」(ともに農畜産水産物卸売業)、「営業範囲を拡大し売上増」(食料・飲料卸売業)</p> <p>「燃料価格が上昇傾向にあり物流経費の増加を懸念」(繊維品卸売業)、「百貨店、スーパーなどで小売業の売上げ不振が続く厳しい状況」(家具・建具等卸売業)、「下げ止まり傾向ではあるが状況は依然厳しい。雇用調整助成金でなんとかしのいでいる状態」(鉱物金属材料卸売業)</p>					
小 売	DI値(前月比) ↑好転 ↓悪化					
	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	<p>「経費節減効果で採算は好転」、「閉店売り尽くしセールを実施し売上は前年同期比30%増の予定」(ともに百貨店)、「定額給付金の効果で人通りが増加、来客数も下げ止まった。個人消費は増えてきている」(その他の小売業)</p> <p>「相変わらず消費者の財布のひもは固く、売上回復は当分見込めない」(百貨店)、「前倒し実施したボーナス商戦が苦戦している」(その他の小売業)、「景気の先行き不安から買い控えがある」(商店街)</p>					
サービ	DI値(前月比) ↑好転 ↓悪化					
	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↓	↓	↑	↓
	<p>「夏季観光シーズンの影響もあり若干改善の兆しが見られる」(食堂・レストラン)、「夏場の来客数増を期待」(飲食サービス業)、「週末を中心に祭りやお盆、海水浴などを目的とした予約が順調」(旅館)</p> <p>「小規模飲食店の廃業が続いている」(食堂・レストラン)、「コンビニエンスストアの弁当などの安売りの影響を懸念」(他の一般飲食店)、「新型インフルエンザの影響を引きずり例年の水準には達していない」(旅館)、「タクシー業界は売上が悪化している」(他事業サービス業)</p>					

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、6ブロックでマイナス幅が縮小している。特に、北海道では、建設業を中心にマイナス幅が縮小した。一方、北陸信越、四国、九州では、卸売業、小売業、サービス業を中心にマイナス幅が拡大した。北陸信越では卸売業・小売業・サービス業を中心に資金繰り、四国では卸売業・小売業を中心に採算、九州では卸売業・小売業を中心に売上・従業員が悪化している。

ブロック別の向こう3カ月(8月~10月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべての地域でマイナス幅が縮小している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	09年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全 国	73.4	72.8	70.4	65.7	64.2	63.6	48.4 (48.3 / 58.4)
北 海 道	70.8	60.7	62.9	58.8	56.4	50.6	43.4 (46.2 / 60.7)
東 北	70.9	71.9	72.7	64.6	66.9	65.9	50.4 (47.9 / 57.5)
北陸信越	72.9	73.3	70.7	58.7	60.1	69.0	47.6 (46.6 / 53.8)
関 東	77.0	73.8	71.9	67.4	66.7	63.8	49.7 (50.4 / 58.6)
東 海	71.9	70.3	77.0	75.4	70.1	67.2	51.6 (49.3 / 59.2)
近 畿	79.8	77.5	74.1	74.2	70.3	67.8	53.6 (55.4 / 40.4)
中 国	77.7	81.2	74.1	77.2	71.9	69.3	40.4 (52.2 / 59.2)
四 国	59.8	66.4	49.6	47.7	49.2	50.4	40.5 (33.6 / 64.7)
九 州	69.5	71.8	71.6	60.9	58.9	61.1	50.9 (46.0 / 55.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月6月の先行き見通しD I

()内右側は昨年7月の先行き見通しD I